

研究・調査報告書

報告書番号	担当
470	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, social support, and risk of stroke and coronary heart disease among Japanese men: the JPHC Study. 日本人男性における飲酒量・ソーシャルサポートと脳卒中・冠動脈疾患リスク:JPHC 研究	
執筆者	
Ikehara S, Iso H, Yamagishi K, Yamamoto S, Inoue M, Tsugane S; JPHC Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2009 Jun;33(6):1025-32. Epub 2009 Mar 19.	
キーワード	
飲酒量、冠動脈疾患、ソーシャルサポート、脳卒中、追跡研究	
要旨	
背景: 飲酒量と心血管疾患リスクの関連がソーシャルサポートに影響を受けるかどうかは明らかではない。	
方法: JPHC 研究に参加した 40-69 歳の男性 19,356 人のデータを用いた。飲酒量は 7 群に分類された: 飲酒歴なし、過去飲酒あり、機会飲酒者、習慣的飲酒者 4 群(週当たり飲酒量 1-149,150-299, 300-449, 450 グラム以上)。飲酒量と心血管疾患リスクの関連をソーシャルサポートの中央値で層別化し分析した。ソーシャルサポートは、情動サポートスコアを用いて測定した。	
結果: 平均 9.9 年の観察期間に 629 例の脳卒中および 207 例の冠動脈疾患が発症した。軽度-中等度飲酒は、総心血管疾患・冠動脈疾患の低リスクと関連していた。一方、多量飲酒は脳卒中、とりわけ脳出血の高リスクであった。ソーシャルサポートの値で層別化した場合、軽度-中等度飲酒(週当たり飲酒量 1-299 グラム)の総心血管疾患に対する多変量調整ハザード比は、低ソーシャルサポート群で 0.99(0.72-1.37)、高ソーシャルサポート群では 0.56(0.44-0.70)であった(交互作用の $p=0.002$)。多量飲酒の脳出血に対する多変量調整ハザード比は、低ソーシャルサポート群で 2.09(1.03-4.27)、高ソーシャルサポート群では 1.25(0.72-2.15)であった(交互作用の $p=0.44$)。飲酒量とソーシャルサポートの交互作用は冠動脈疾患については認められなかった。	
結論: ソーシャルサポートは軽度-中等度飲酒の心血管疾患リスクに対する好ましい効果を増強させている可能性がある。	